

「細川」「県美」
コレクション展
Collection

スケジュール 〈第Ⅲ期～第Ⅳ期〉

	特別展	細川コレクション	県美コレクション
10月	山下清展 —時代を歩いた放浪画家の生涯— 10月5日～12月15日	細川コレクションⅢ (特集) 幕末の肥後 —黒船来航の衝撃— 10月1日～12月23日	県美コレクションⅢ (特集) 今西コレクション名品展 10月1日～12月23日
11月			
12月			
1月		細川コレクションⅣ (特集) 馬の美術 1月9日～3月23日	県美コレクションⅣ (特集) ポップ・アートと アメリカ版画 1月9日～3月23日
2月			
3月			

関連イベント

ミュージアムセミナー

展覧会の内容や当館の活動に関するくわしい話、美術や歴史についての裏話などを楽しく紹介するセミナーです。事前申込みは不要で、どなたでも無料で参加できます。

10月12日(土)14:00～15:00
「今西コレクションの浮世絵」
講師:当館学芸員 金子 岳史
会場:本館講堂

学芸員による
ギャラリートーク

会期中の毎月第二・第四日曜日の14時から、当館学芸員が展示作品について30分程度解説いたします。開始時間前に二階会場入口までお越しください。なお、ギャラリートークのご参加には観覧料が必要となりますので、ご注意ください。

10月13日(日)、10月27日(日)
11月10日(日)、11月24日(日)
12月8日(日)、12月22日(日)
14:00～14:30

子ども美術館

展覧会の内容にあわせ、美術や歴史の理解につながる子ども向けのワークショップを開催します。事前申込みは不要で、どなたでも無料で参加できます。ただし、展示室に入場される場合には、観覧料が必要となりますのでご注意ください。

10月6日(日)10:30～12:00
「貼り絵で自画像」

特別講演会

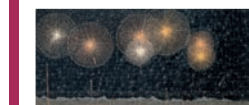
細川コレクション(特集)幕末の肥後—黒船来航の衝撃—に関連した特別講演会を開催いたします。本講演会では、幕末における熊本藩の長崎での情報収集活動について、分かりやすくお話をいただきます。事前申込みは不要で、どなたでも無料で参加できます。

11月16日(土)13:30～15:00
「幕末熊本と海外情報」
講師:長崎大学准教授 木村 直樹氏
会場:本館講堂

同時開催

山下清展

—時代を歩いた放浪画家の生涯—
「日本のゴッホ」「放浪の天才画家」と称された山下清は、1922年(大正11)に生まれ、49歳で亡くなるまで、昭和という激動の時代を歩んできました。本展では貼り絵をはじめ、ペン画、油彩、水彩画などの画業とともに、放浪日記や数々の遺品を紹介し、芸術家として、一人の人間としての山下清の真の姿に迫ります。



山下清(花火)複製画
1950(昭和25)年
油彩

2013年10月5日(土)～12月15日(日)
本館一階展示室
主催:TKUテレビ熊本、熊本県立美術館
入場料:一般 1,000円(800円)
高・大学生 700円(500円)
小・中学生 500円(400円)
()内は前売り(～10/4)及び20名以上の団体料金
未就学児は無料
障がい者手帳をお持ちの方無料

交通案内 Transportation guide

- バス/交通センターから歩いて15分、または交通センターで熊本城周遊バス(通称:しろくめん)に乗り換え「熊本城二の丸駐車場」下車、歩いて3分
- 市電/「熊本城・市役所前」または「花畑町」下車、歩いて15分
- JR/熊本駅から熊本城周遊バスで「熊本城二の丸駐車場」下車、歩いて3分上熊本駅からタクシーで10分
- 阿蘇くまもと空港/空港バスで交通センターへ、センターから歩いて15分または熊本城周遊バスに乗り換え「熊本城二の丸駐車場」下車、歩いて3分
- 駐車場/二の丸駐車場(有料)三の丸駐車場(有料)



KUMAMOTO PREFECTURAL MUSEUM OF ART
熊本県立美術館
本館 〒860-0008 熊本中央区二の丸2番 TEL.096-352-2111 FAX.096-326-1512



「細川」「県美」
コレクション展
Collection

細川コレクション
〈特集〉幕末の肥後—黒船来航の衝撃—
〈常設〉細川家の武具・調度・近代日本画

県美コレクション
〈特集〉今西コレクション名品展
〈常設〉熊本県の古美術・戦後美術・フランス近代絵画

■細川コレクション常設展示室(別棟展示室+二階展示室第1室)
主催:熊本県立美術館・熊本日日新聞社・RKK熊本放送
協力:熊本県立美術館・熊本県立美術館本部 肥後銀行
特別協力/公益財団法人 永青文庫

■県立美術館コレクション展示室(二階展示室第2・3室)
主催:熊本県立美術館

2013. 10. 1. Tue. → 12. 23. Mon. ※作品保護のため、会期中に一部作品の展示替えを行います。

熊本県立美術館本館 〒860-0008 熊本中央区二の丸2番 TEL.096-352-2111 FAX.096-326-1512
開館時間/9時30分～17時15分(入館は16時45分まで)
休館日/毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日休館)

観覧料金	■ 共通券 / 一般400円(300円) 大学生240円(180円)	高校生以下無料・障がい者手帳をお持ちの方無料
	■ 別棟展示室のみ / 一般200円(150円) 大学生120円(100円)	※()内は20名以上の団体料金 ※前売券なし
	■ 本館二階展示室のみ / 一般260円(190円) 大学生160円(120円)	

細川コレクション

公益財団法人永青文庫の所蔵品を通じて、熊本の歴史や美術、そして細川家の大名文化を総合的に紹介する「細川コレクション」。第Ⅲ期では、細川三斎(忠興)が考案した三斎流具足をはじめ、細川家に伝わる武具甲冑や、藩主夫人の華麗な婚礼調度を紹介します。また、細川家の近世絵画や細川護立収集の近代絵画を展示します。

「細川」「県美」
コレクション展
Collection

県美コレクション

熊本県立美術館が所蔵する美術品を通して、熊本の美術と歴史を紹介する「県美コレクション」。第Ⅲ期では、肥後鐔や熊本ゆかりの刀剣のほか、八代焼・小代焼といった熊本の陶磁器を紹介します。また、フランスの近代絵画や、芸術の都ウィーンで学びヨーロッパの古典技法を駆使して現代を描いた、熊本の3人の画家の作品を紹介します。

常設:別棟展示室

※別棟のみの観覧料金もございます。



熊山南展(複製画)
大正2年(1913) 熊本県立美術館蔵
※展示期間11.6～12.23



《細川家文書箱(複製)》
江戸時代中期 永青文庫蔵 熊本県立美術館寄託

特集:本館二階第1室

幕末の肥後
—黒船来航の衝撃—

今年2013年は、嘉永6年(1853)6月3日、浦賀沖にペリーが来航して160年目になります。軍艦4隻を率いて来航したペリーは、「砲艦外交」を繰り返して、幕府は翌安政元年3月3日に日米和親条約を締結し、「開国」への道を歩むこととなります。この「ペリー来航」160年を記念して、特集展示では相州警衛を命じられた第10代藩主・細川斉護が用いた甲冑や、藩政を記録した古文書、外国船来航図などを展示します。また、ペリー来航を契機として、異国船に関する情報や海外情報の伝播・収集は全国的な広がりをみせるようになります。本展では、「情報」をキーワードに幕末の肥後の一面をご紹介します。



細川藩主所用(黒革威紅鞆具足)
永青文庫蔵 熊本県立美術館寄託



《細川藩政後》
江戸時代後期(19世紀) 永青文庫蔵
※展示期間10.1～11.10

《毛付絵物》部分
江戸時代中期(18世紀) 永青文庫蔵

常設:本館二階第2・3室



春日先義(SOS-II)
(白石の石馬場)
平成11年(1999)
熊本県立美術館蔵



盲導犬二
(GRUITS BOX—Gruppe der Blinden)
昭和60～62年(1985-87)
熊本県立美術館蔵



牛島義弘
(花の飾る少女)1900年頃
熊本県立美術館蔵



ルノワール《飾る少女》1900年頃
熊本県立美術館蔵

特集:本館二階第2室

今西コレクション名品展

今西コレクションは、NHK熊本放送局の職員であった故・今西菊松氏が生涯をかけて蒐集した、肉筆浮世絵・版画・茶道具・工芸品などのたいへん優れたコレクションです。とくに肉筆浮世絵は、国内でも有数のコレクションで、全国的にも高く評価されています。今西氏が亡くなられた後、コレクションの大部分が熊本県立美術館に寄贈されました。今回の特集展示では、肉筆浮世絵・版画・茶道具・近代工芸などの名品をご紹介します。今西氏が、研ぎ澄まされた鑑識眼をもとに、生活費をも切り詰めたがら日々々々、ぜひご覧ください。



歌川芳春(海邊茶店)
明治時代(19世紀)
熊本県立美術館蔵
※展示期間11.12～12.23



歌川芳春(朝霧)
江戸時代中期(18世紀)
熊本県立美術館蔵
※展示期間10.1～11.10



《錦出陣(複製画)》昭和50年(1975)
高野敏行、監修・増村益城
熊本県立美術館蔵



河鍋鴨倉(牛島丸)
明治時代(19世紀)
熊本県立美術館蔵
※展示期間11.12～12.23



石田玉山(美人目隠し遊戯)
江戸時代後期(19世紀)
熊本県立美術館蔵
※展示期間10.1～11.10

「永青文庫」とは?

永青文庫は、江戸時代に肥後熊本の地を治めていた細川家に伝わる美術工芸品や歴史資料等を保存・研究するために設立された公益財団法人です。細川家の「始祖」とされる細川頼有が眠る京都建仁寺の「永源庵」の「永」と、近世細川家の「初代」とされる細川藤孝(幽斎)の旧領・京都西園の「青龍寺城(勝龍寺城)」から「青」の一字をとり、第16代細川護立氏によって命名・設立されました。当館では、東京の公益財団法人永青文庫が所蔵する様々な美術工芸品や近世屏風、そして近代日本画などを展示できるよう「細川コレクション常設展示室」を設立し、およそ3ヶ月ごとに展示替えを行いながら、永青文庫の名品を常時展示しております。



浜田知明版画室

浜田知明版画室では、熊本市在住の版画家・彫刻家である浜田知明の作品を入れ替えて常設展示しています。今期は、1975年の《せかせか》、《いらいら(B)》から、1977年に出版したオリジナル版画集『墨後晴』の前半5点、計10点の銅版画作品を展示します。この頃作者は50代後半、体調を崩し入院と手術をくり返しました。浜田らしいところは、その自分自身の体調や心情の変化を冷静に観察しながら作品化しているところでしょう。モデルは自分自身、自画像です。彫刻は、1987年の《異常なし》、これも病院で検査を受けている作者の姿でしょう。



浜田知明(彫刻)昭和51年(1976) 熊本県立美術館蔵